

# インターネット上のフランス語教材に表れる 直説法半過去形の用法について

## De l'emploi de l'imparfait de l'indicatif dans des ressources pédagogiques en français sur Internet

平 嶋 里 珂  
Rika Hirashima

### 要旨

Dans les ressources pédagogiques de conversation en français disponibles sur Internet, on trouve des exemples de l'Imparfait de l'indicatif qui revêtent une nuance modale, rarement mentionnée dans les manuels du FLE élémentaire. On y observe également plusieurs caractéristiques syntaxiques peu abordées dans les manuels de grammaire pédagogique. L'analyse des discours utilisant les exemples modaux montre que l'Imparfait remplit une fonction importante sur la planification d'une communication fluide.

### キーワード

教育文法、叙法的ニュアンス、モダリティ機能

## 1. はじめに

外国語教育における文法記述（＝教育文法）は、言語体系の学術的記述とは異なり、学習者向けに単純化・簡略化されているだけでなく、教える側が採用する教育理論あるいは教授法の影響を受け、説明の仕方や練習方法が変化するという傾向を持つ（Cuq & Grucca, 2005）。例えば、Hirashima（2015）によれば、直説法複合過去形（以後 PC）の用法の記述は、日本で作成された文法学習中心の教科書と、機能的文法を採用するコミュニケーション中心の総合教科書では異なっており、後者にはこの時制形の本質的意味につながる現在完了の用法が少なく、派生的な「過去」の意味に偏る傾向がある。さらに、Hirashima（à paraître）によれば、日本で作成された初級のフランス語教科書に記述された直説法半過去形（以後 IMP）の用法には、この時制形の本質的な特徴の一つである、現在時との隔絶を示す叙法的ニュアンスを表す用例（ex. Je voulais vous demander un service）が非常に少ない。

この論考では、Hirashima (ibid.) の研究路線に沿い、インターネット上の会話中心の外国語としてのフランス語（以後 FLE）教材に現れる IMP の用法を分析する。グローバル化による英語偏重の影響を受け、日本の大学における第二外国語教育が縮小傾向にある一方で、インターネットやアプリ等、外国語教育に活用できるモダリティは多様化している。学習者は各自のニーズに応じて様々な外国語教材に触れることが可能であり、大学の授業の補助教材としても、独習教材としても、インターネット教材は重要な学習資源となりうる。インターネットという紙面的制約がない状態で提示された会話教材の IMP の用例に、どのような特徴がみられるのかを明らかにすることが、本稿の主たる目的である。分析に当たっては動詞時制形研究に関する言語学的知見を教育に転用し、会話スクリプトに現れた IMP が、①どのような発話状況とディスコースで②いかなる語用論的意味を表すのかを明らかにするよう努める。

## 2. IMP の用法分析

### 2.1 コーパス

本稿で分析対象とする教材は、様々な日常会話を提供する French Talks の、中上級（A2～B2）レベルの会話スクリプトである。大学の授業で一通りのフランス語初級文法を終えた学習者が表現力の幅を広げ運用能力を伸ばすための学習教材として想定している。直説法半過去形のデータは French Talks の動画シリーズの 101 個の会話トランスクリプション<sup>1)</sup>から抽出し、合計 56 個の用例が見つかった。

### 2.2 現在と対比される過去の状況・習慣

IMP は過去時における習慣や状況を表す際に用いられる。明示されることはなくとも、語り手と聞き手の間には現在時から離れたある時代の状況について語っているという暗黙の了解がある。この用法では、IMP で表される事柄は終点を持たない状態（ex. Quand j'étais jeune, j'aimais lire）や不特定回数繰り返された習慣（ex. Quand j'étais étudiant, je travaillais pendant les vacances pour gagner mes scolarités）と解釈される。コーパスの中でこの用法に相当するものは 2 件のみであった<sup>2)</sup>。用例は B1 レベルの「思い出 (=Souvenirs)」と題された会話スクリプトの中で見つかっており、叔母と姪が昔の写真を見て言葉を交わす場面に現れる。

1. Cécile: Papa et mon oncle, donc, qui **habitaient** tout près l'un de l'autre quand ils **étaient** jeunes. (B1 : *Souvenirs* より)

IMP は Cécile の父と叔父の青年期 (être jeune) の居住状況 (habiter tout près l'un de l'autre) を、話者 (Cécile) が語る時点から遠くはなれた過去時に据える。時期の始点と終点は明確で

はなく、文脈から語り手の現在の状況とは異なっていることが推察される。

## 2.2 PC との対立による意味付け

しばしばIMPはPCと対立する意味を持つ過去時の動詞時制形として現れる。二項対立の解釈の枠組みとなるのはアスペクト的性質とテキスト中の役割の違いである。アスペクトは動詞または事行（動詞＋補語）の開始から終了等の展開局面の性質を表す。アスペクト的に解釈すると、PCは過去時において完結<sup>3)</sup>した事柄を表し、IMPは事柄を完結していない展開中のものとして表す<sup>4)</sup> (ex. A 18h, le train est parti; A 18h, le train partait.)。一方、Weinrich (1974)の影響を受けたテキスト文法 (ex. Weinrich, 1989) では、PCとIMPは過去時の物語の中で異なる機能を果たすものと考えられている。すなわち、PCは物語の前景で筋を進める事柄を表し、IMPは情景・人物描写・補足説明等、物語の後景を構成する (ex. Hier, j'ai vu une de mes amies du lycée. Elle venait passer un entretien pour retrouver un emploi. Nous avons bavardé un moment dans un café près de la gare)。

コーパスでは56件注43件のIMPがPCとの対立によって解釈されたが、アスペクト的性質とテキスト中の役割の違いの区別は判然としないものがほとんどだった。次の例を見てみよう。

2. B : Mais le moment le plus impressionnant, ça *a été* les hymnes avant le match, on **sentait** une émotion incroyable sur le terrain et dans les tribunes.

(B2 : *Une expérience mémorable au stade* より)

上の例では、PC (ça a été les hymnes avant le match [一番印象に残ったのは試合前の国歌斉唱だった]) が完結した事柄、IMP (on sentait une émotion incroyable sur le terrain et dans les tribunes [スタジアムとスタンドではみんな信じられないくらい感動していた]) は未完了の事柄と解釈される。しかし同時に、IMPの事柄はPCで表される事柄の状況説明とも考えられるからである。筆者が採取したIMPの用例については、多くの場合、アスペクトとテキスト内の機能の違いは分析の視点の違いとして考えた方がよさそうである。

物語の後景を構成するディスコースとして多いのは、「行為の理由づけ」と「話題となるものごとの説明」である。いくつか例を挙げる。

3. (...) Comme il **pleuvait**, j'*ai fait* du bricolage à la maison.

(B1 : *Dimanche ... bricolage* より)

4. On *s'est séparés* la semaine dernière...Je **n'étais** plus amoureuse, en fait, on **n'était** pas heureux ensemble.

(B1 : *Dans un café* より)

5. Marc : C'**était** un homme gentil.

Marc : (...) Il **était** encore jeune, non?

Lucas : Il **avait** 70 ans. (A2 : *Mes condoléances* より)

6. A: Alors Sophie, comment **c'était** le resto où tu es allée hier soir?

B: **C'était** assez mitigé. J'ai *trouvé* que **c'était** un peu cher et les portions pas très généreuses, mais les ingrédients **étaient** frais et le service irréprochable.

(B2 : *Opinion sur un restaurant* より)

例文3と4ではIMPは理由を述べるために使われている。4では理由付けのマーカが現れていないが、恋人と別れた理由がJe n'étais plus amoureuse (もう好きではなかった)、on n'était pas heureux ensemble (一緒にいて幸せではなかった) ことは明らかである。例文5では心臓発作で亡くなった友人の父を悼み生前の様子 (C'était un homme gentil [優しい方でした]) や逝去時の状況 (Il était encore jeune, non? [まだお若かったんでしょう?])、(Il avait 70 ans [70歳でした]) が語られる。例文6では、昨日友人が食事したレストランの概要が語られる (C'était assez mitigé. [一長一短といった感じだった] c'était un peu cher et les portions pas très généreuses [かなり高いし量は多くはなかった], mais les ingrédients étaient frais et le service irréprochable [素材は新鮮だったしサービスは非の打ちどころがなかった])。

話題となる対象の説明描写は関係代名詞節によって導入されることも多い。

7. (...) ton père *a épousé* la femme que ton oncle **aimait**, ta mère (...)

(B1 : *Souvenirs* より)

8. J'ai *réparé* un robinet qui **fuyait** dans la salle de bain.

(B1 : *Dimanche ... bricolage* より)

9. B: Il *a mangé* un feuilleté pomme et camembert qui **était** délicieux. Au final c'était pas si mal, à part l'addition qui **était** un peu salée.

(B2 : *Opinion sur un restaurant* より)

例文7は「叔父が好きだった女性」、例文8では「水漏れしていた蛇口」と、関係代名詞節の内容は先行詞の名詞を限定するものと解釈できる。例文9の l'addition qui était un peu salée (少々お高い会計) も会計の内容を限定していると考えられる。一方、例文9の前半の Il *a mangé* un feuilleté pomme et camembert qui était délicieux では、関係代名詞節の内容は、料理を食べた結果それが美味しかったという意味になるため、料理の補足情報と考えなければならない。本稿のコーパスではIMPを含む関係代名詞節は6件見つかったが、先行詞の補足と捉えられるものはこの1件のみだった。

## 2.3 叙法的ニュアンスを帯びた用法

56 件のコーパスの中には過去の状況・習慣または過去時の出来事の状況描写と解釈されない例が 11 件見つかった。いわゆる叙法的と言われる用例である。典型的な例は仮定節 *si* で使われる IMP で、結果節に条件法を取り、現実には想定しがたい仮定と実現可能性の低い事柄を予想する。

10. Stéphane: Que veux-tu, si les auteurs n'**avaient** pas besoin de publicité, ça se saurait!

(B1 : *Discussions sur un polar* より)

11. -Oui, mais en fait, si j'**étais** courageux, je changerais le papier peint dans le salon...

(B1 : *Dimanche ... bricolage* より)

例文 10 は小説について同僚が議論している会話で見られた。直前に、ある書籍の作者について L'auteur s'était rendu célèbre en refusant le prix qu'il s'était vu offrir. Je n'en reviens pas, d'ailleurs, qu'il se soit fait encenser à ce point... (作者は賞を拒否して有名になったが、それにしてもあれほど称賛されるとは信じられない) という意見に対し、皮肉に満ちた返事をしたものである。直訳すると「作者が宣伝を必要としないのであれば、それは知れ渡っているだろうに」であるが、ça se saurait! には「(実際には) そんなことはあり得ない」という含みがある。仮定節 *si les auteurs n'avaient pas besoin de publicité* は非現実的な仮定であり、文全体は反語的に「賞を断ったのも注目を集めるための宣伝だった」と解釈される。例文 11 は日曜大工をした同僚の会話中に出てくる文である。雨天だったので日曜大工をしたものの、居間の壁紙を変える気になるほどのやる気は持っていないことが *Si + IMP (si j'étais courageux)* で示されている。

叙法的ニュアンスを帯びる IMP の用例として語調緩和がある。語調緩和の用例では、IMP で表される内容は発話される時点で真であるが、IMP を用いることで、内容を直接的に伝えることを弱める効果がある。典型的な例は希望や依頼を伝える際に現れる IMP である。

12. A: En fait, je **voulais** que tu m'aides à choisir. (B2 : *Choisir un restaurant* より)

13. B: Si vous **pouviez** nous apporter un peu d'eau fraîche, ce serait très gentil.

(B2 : *Commander au restaurant* より)

例文 12 は友人の誕生パーティーに使うレストランを選ぶためにアドバイスをもらおうとする電話の会話に出てきたものである。例文 12 の話し手は相手を食事に誘い、実は食事に行くレストランを決めかねておりアドバイスが欲しいことを明らかにする場面で使われている。会話の様子から親しい間柄であることが分かるが、話の展開（食事に誘っているのはレストランのアド

バイスをもらうため) に応じて、一種の遠慮があることを IMP は示している。例文 13 は一見すると非現実を表す条件法の用法に見えるが、レストランでウェーターに水を頼む場面で発せられた文である。「依頼を表す」場面と聞くと、動詞 *pouvoir* を使い *Pouvez-vous nous apporter un peu d'eau fraîche?* のような文を思い浮かべるだろう。この構文では相手に「水を持ってくる」という依頼をすることがメッセージの中心にある。依頼の丁寧さの度合いは *pouvoir* を単純未来形または条件法現在形にするかで変わってくる。一方、条件節を使い *Si vous pouviez nous apporter un peu d'eau fraîche, ce serait très gentil* (冷たい水を持ってきてもらえたらありがたい) と表現した場合、相手の行為 (*nous apporter un peu d'eau fraîche*) により自分に感謝の気持ちが生まれる点がフォーカスされ、結果として丁寧さの度合いは一段上がる。IMP は相手に望んでいる行為 (*nous apporter un peu d'eau fraîche*) を発話時点から引き離すことで、要求を緩和する機能をはたしている。

婉曲表現の手段として IMP を用いるのは話者の要望を伝える場合だけではない。例文 12 の直後に話者は次のように述べる：

14. Je **pensais** à trois options. (B2 : *Choisir un restaurant* より)

日本語には「3つ選択肢を考えていたの / 考えてみたの」とでも訳せるところだろう。3つの選択肢は話者が発話している時点でも考えていることであり、直説法現在形 (以後 PR) を使って述べてもよさそうだが、相手にアドバイスをもらいたいという前提で話を進めているので、IMP を使っているのだろう。この後、話者は3つのレストランそれぞれのメリットとデメリットを PR で述べ、相手のアドバイスでレストランを決定するという流れになる。同じような例は友人または同僚がイベント企画を話し合っている会話でも見受けられた。

15. Personnage B: Oui, justement. Je **pensais** qu'on pourrait organiser un événement pour collecter des fonds. Peut-être une soirée culturelle? (B2 : *Projet commun* より)

例文 15 は *Tu as réfléchi à notre projet pour l'association?* (僕らの団体のプロジェクトについて考えてくれた?) というチームメンバーの問いかけに答えたものである。会話の中で、人物 B が考えたイベント企画についてやり取りがなされるが、B の提案には述べる内容に対して心理的距離をおく動詞時制形 (直説法大過去形、条件法現在形) が使われている。

Personnage A: Une soirée culturelle? Ça peut être intéressant. Tu as une idée du thème?

Personnage B: J'**avais pensé** à quelque chose autour des cultures du monde. On **pourrait** avoir des stands, des plats typiques, et même des performances artistiques.

Personnage A: Oui, ça me plaît! Mais ça risque de demander pas mal de travail. Tu crois qu'on aura assez de bénévoles?

Personnage B: Bonne question. On **pourrait** lancer un appel sur les réseaux sociaux. Ça fonctionne bien, en général.

Personnage A: Oui, et peut-être qu'on pourrait aussi contacter des écoles ou des universités. Les étudiants aiment souvent participer à ce genre d'événement.

Personnage B: Excellente idée. On **devrait** établir une liste de tout ce qu'il faut préparer.

Personnage A: D'accord, je m'en occupe. On peut se revoir demain pour mettre tout ça au clair?

(B2 : *Projet commun* より)

自分が考えたことを客観的に述べるのであれば J'ai pensé (...) と言うところであるが、J'avais pensé (...) と直説法大過去形を使うことで、議論の現場との間に一定の心理的距離を保つことができる。議論を行う場合、現実にもリットをもたらすものとして強く提案内容をアピールしたいのであれば、PR を用いることができる (ex. On peut lancer un appel sur les réseaux sociaux)。客観的に予測するのであれば直説法単純未来形を選ぶだろう (ex. On pourra lancer un appel sur les réseaux sociaux)。しかし、条件法現在形を用いることで、自分の主張を議論の前面に出すことを避け、相手に主張の余地を与える効果が生じる。話の展開から、2名のやり取りは正式なプロジェクト企画の議論を行う場ではなく、おそらく立ち話で出された話題だと考えられる。このような状況設定もあり、人物 A の反応が確認できるまで、B は断定を避けてディプロマチックに提案を進めているのだろう。

これまで紹介した IMP の例は過去時の事柄を指向しておらず、明らかに叙法的用法と呼べるものだった。しかし、コーパスの中には過去の事象に関係しながらも「過去の習慣・状況」「過去時の出来事の状況説明」という解釈をしにくい例がいくつか見られた。

16. Adrien: Mais je **croyais** qu'il s'agissait d'un polar violent! Personne ne se fait assassiner?

(B1 : *Discussions sur un polar* より)

17. -Véronique! Quelle surprise de te rencontrer! Justement je **pensais** à toi!

(B1 : *Dans la rue de Rome, à Paris* より)

18. Or jusqu'à présent, c'**était** quelqu'un qui se caractérisait plutôt par la discrétion.

(B1B2 : 会話のタイトルなし)

例文 16 は推理小説好きの友人から読み終えた小説の話聞いていた Adrien の感想である。Mais je **croyais** qu'il s'agissait d'un polar violent (過激なサスペンス小説だと思っていた) は自分が

抱いていた予想が外れたことを表している。例文 17 は友人 Véronique に連絡を取りたいと思っていた話者が偶然にも本人に出会った際に発せられる。Justement je **pensais** à toi! (ちょうど君のことを考えてたんだ!) は出会う直前まで彼女のことを考えていたことを示している。例文 18 は、これまで控えめな人物だと目されていた同僚の Simon が、皆の予想を裏切り、仕事の契約を成立させた際の、同僚の驚きのコメントである。Jusqu'à présent (今まで) と IMP (c'était quelqu'un qui se caractérisait plutôt par la discrétion) が組み合わせられることで、Simon が大人しい性格であるという話者の思い込みは否定され、実は有能であったという事実を間接的にアピールしている。

上記の 3 例は、IMP の部分だけ限定してみれば、過去時における状況や描写と解釈することも出来そうに思える。友人との再会を喜ぶ例文 17 については、話者が驚いた (Quelle surprise de te rencontrer! で表される) のは相手のことを考えていたから (Je pensais à toi) という解釈が成立する。しかし、例文 16 と 18 を同じように解釈するのは無理がある。発話状況を見てみると、どちらも、①会話が行われている時点で、話者は IMP で表されている事柄がすでに無効になったとみなしている、②現在の状況 (例文 16 では推理小説に殺人事件が起こらない、例文 18 では Simon が契約成立させた) を予想外の事実とみなしているという共通点がある<sup>5)</sup>。

「実は違う (今は違う)」という事実とそれに伴う様々な感情的ニュアンスを含意する IMP の例は以外に多い。例えば Je ne savais pas! (知らなかった! [何かの事実を知った時に]) や Mais je regardais! (観てたんだから! [テレビのチャンネルを急に換えられて]: 平嶋, 2021) があげられる。Je ne savais pas! を発する場面では話者の心情として驚き (に加え悲しみまたは喜び) が、Mais je regardais! の発話場面では憤りがにじみ出るはずだ。発話時点において無効となった内容を IMP で表すことで現在の状況を間接的に伝える用法に触れている文法記述はごく少数である<sup>6)</sup>。大半の文法記述では、過去の習慣と出来事の状況描写に続いて IMP の様々な叙法的用法が紹介されるが、叙法的用法を総合的に解説する理論的レフェランスはないように思える。

本質的性質として明示されることはないが、実は IMP には PR と対立する意味の領域を表すという特徴がある。この性質は Coseriu (1980) や Touratier (1996) によって *inactuel* または *non actuel* という概念で表されている<sup>7)</sup>。IMP と PR は対立する二つの領域を構成し、IMP は PR で表された事柄の内容を弱める働きを持つ (Coseriu, *ibid.*, 9)。IMP の活用語尾を持つ直説法大過去形、条件法現在形、条件法過去形もそれぞれが対応する活用形 (直説法大過去形は直説法複合過去形、条件法現在形は直説法単純未来形、条件法過去形は直説法前未来形) が意味する内容を弱める (Touratier, *ibid.*: 107-110, 152-153, 182-184)。PR との対立という視点から考えると、条件節 (ex. Si j'étais plus courageux) や依頼表現 (ex. Je voulais que tu m'aide à choisir) の IMP が事柄の内容を弱めて表す働きがあることが合理的に説明できる。では、発話時点で無効になった事柄を表す IMP はどう解釈すべきだろうか? IMP は PR と対立する世

界を構成するため、発話時の状況に直接つながる事柄を表すことはできない。発話時まで継続する事象を表すのは直説法複合過去形であり（ex. Vous avez toujours habité à Paris?）、IMP が表すのは発話時の直前まで継続していても、何らかの理由で中断または取りやめなければならなかった事象である。発話時直前に無効にされた事柄を取えて言語化する行為は、事柄を無効にした出来事（例文 18 であれば、Simon の契約成立）によって生じた現状（Simon が有能であるという認識）を、話者が完全に受け入れてはいないことを、間接的に表そうとしていると考えられるだろう。

### 3. まとめと今後の展望

本稿のまとめと今後の研究展望として、いくつかポイントをまとめておこう。

- 過去時の動詞時制形の機能を説明する際に使われるアスペクト的解釈とテキスト上での解釈は、分析の視点の違いを表すもので、相互補完的に IMP の役割を説明するものと考えられる。
- 動詞時制形の意味の創出には動詞のアスペクト的性質や時間表現が関与していることがしばしば指摘されてきたが<sup>8)</sup>、IMP の場合、関係代名詞節や条件節などの構文的要素も大きな役割を担っている。
- 大半の教科書では、日本人学習者が最初に学ぶ IMP の叙法的用法は非現実を表す構文であるが、文法説明では非現実という説明以外にこの動詞時制形のコミュニケーション上の役割を記述することはほとんどない。しかし、日常の用法により近いフランス語を紹介していると思われるインターネット教材では、話者が相手と円滑なコミュニケーションを行う上で、IMP が重要なモダリティ機能をはたしている例がかなり見られる。
- IMP の叙法的用法は「非現実」の用法を除き、初級の教育文法に記載されることは少ない。しかし、本稿で分析した婉曲的依頼等の IMP の叙法的用例は、初級の会話教材にも自然になじむものであった。用例について明示的な文法説明を行わずとも、会話の流れに合う叙法的用法は初級から導入してもいいのではないかと思われる。
- このような IMP の叙法的ニュアンスを解釈する際は、発話時点と IMP を含む文との時間的関係だけでなく、発話者と相手との心理的距離、事柄（発話内容）が埋め込まれたディスコースの性質を理解する必要がある。IMP に限らず、動詞時制形をコミュニケーションにおけるモダリティ機能として学習するという視点は、今後の FLE の文法教育において重要な課題となるのではないだろうか。
- 叙法的ニュアンスを表す IMP を記述する場合、過去時の状況描写の IMP の文法記述に用いた文法用語や時間表現との共起の規則をそのまま使うことができないことにも注意が必要である。過去の物語の展開場面で複合過去形と対比する形で IMP を「展開中・未完了の事柄で

限定された時間表現と共に使うことはできない」と定義する教科書が多いが、叙法的ニュアンスを表す IMP は、発話時点において終了した事柄を表すことがある。例文 18 (Or jusqu'à présent, c'était quelqu'un qui se caractérisait...) に現れているように、発話時に無効となった事柄を表す IMP は事柄の終点を明示する jusqu'à présent のような時間表現と共に使うことも可能である。つまり、IMP の文法的機能の記述及び、機能の概念化作業は、発話場面に応じて変化していかねばならないということになる。

本稿で分析した IMP の用例は少なく、上に挙げたポイントは今後の研究で再度検証の必要があるが、IMP を含めた動詞時制形の学習に新たな視点をもたらせたのではないかと思う。今後はより大きなコーパスを基に、動詞時制形のモダリティ的機能を明らかにすることが課題である。

## 注

- 1) IMP 抽出用の資料として使用したのは French Talks (<https://www.youtube.com/@FrenchTalks>) から配信された2つの動画と French Talks のトランスクリプションサイト LivreFLE ([https://livrefle.com/#google\\_vignette](https://livrefle.com/#google_vignette)) に掲載された3つの動画トランスクリプションである。トランスクリプションがない動画については文字起こし機能と字幕を見てトランスクリプションを作成した。
- 2) これは分析対象とした会話スクリプトに「過去時の習慣や状況を語る」に相当する設定が1つしかなかったためであろう。
- 3) 一般的に PC は終了した行為を表すと定義されるが、状態動詞と組み合わせられた PC は文脈によっては行為の開始を表すことがある (ex. C'est pourquoi j'ai aimé ce garçon. [そういうわけで私はこの男の子のことが好きになったんです])。行為の開始・終了に関わらず、事柄をひとまとまりのものとして表すという意味で、本稿では完結という用語を用いる。
- 4) IMP のアスペクト的解釈については Guillaume (1929), Imbs (1960), Martin (1970) を参照せられたい。
- 5) 過去の習慣や状況描写を表す IMP の場合、表される内容が発話時点において真であるか否かは文脈情報によって変化する。例えば、Quand j'étais étudiante, j'habitais à Fukuoka. の場合、(je, habiter à Fukuoka) は発話時点において真ではないが、J'ai rencontré Murielle au Québec cet été. C'était une étudiante belge. の (ce, être étudiante belge) は発話時点において真である。
- 6) IMP の性質を発話時点を中心とする PR の世界と対立させて紹介している数少ない文法書の例として、西村 (2011) があげられる。
- 7) 使われている用語が特殊なため引用していないが、IMP の叙法的ニュアンスを最初に明示したのは Damourette & Pichon (1911-1936) であろう。
- 8) IMP の場合、arriver のような完了動詞と組み合わせられると行為が開始される直前の状況を表すことがあげられる。動詞および事行のアスペクト的性質と IMP の組み合わせの問題については、Hirashima (1999)、松澤 (2014) に詳しく報告されている。

### 参考文献

- Coseriu, E. (1980). Aspect verbal ou aspects verbaux? Quelques questions de théorie et de méthode. *La notion d'Aspect, actes du colloque organisé par le Centre d'analyse syntaxique de l'université de Metz*, David J., Martin R., Klincksieck: 13-25.
- Cuq, J.-P. & Grucca, I. (2017). *Cours de didactique du français langue étrangère et seconde, Nouvelle édition*. PUG.
- Damourette, J. & Pichon, E. (1911-1936). *Essai de grammaire de la langue française, Livre V*. Slatkine Reprints.
- French Talks. (n.d.). *Daily French Conversation – French Practice*.  
[https://www.youtube.com/watch?v=iCwCiL86qXU&list=PLFKVy0UtTR7zj9QKh\\_eJZfCX1P0mEp5z7](https://www.youtube.com/watch?v=iCwCiL86qXU&list=PLFKVy0UtTR7zj9QKh_eJZfCX1P0mEp5z7) (2026 年 3 月 24 日閲覧)
- French Talks. (n.d.). *Dialogues en français B1B2 – Conversations naturelles pour parler avec confiance*.  
[https://www.youtube.com/watch?v=KUkPMA1Dwi0&list=PLFKVy0UtTR7zj9QKh\\_eJZfCX1P0mEp5z7&index=3](https://www.youtube.com/watch?v=KUkPMA1Dwi0&list=PLFKVy0UtTR7zj9QKh_eJZfCX1P0mEp5z7&index=3) (2026 年 3 月 24 日閲覧)
- Guillaume, G. (1929). *Temps et verbe. Théorie des aspects, des modes et des temps*. Champion [1965 Réimprimé suivi de l'Architecture du temps dans les langues classique, avant-propos de Roche Valin. Champion].
- Hirashima, H. (1999). Enseignement / apprentissage des temps verbaux dits «passés» et ses problèmes chez des étudiants japonais. Thèse de doctorat. Université Stendhal-Grenoble III.
- Hirashima, R. (2015). Tendances actuelles de l'enseignement des temps du passé du français dans quelques méthodes de FLE: le cas du passé composé, *Revue japonaise de didactique du français*, 10: 28-43.
- 平嶋里珂 (2021) 「知っておくと便利な言語学の知識と FLE の教育への活用 — 複合過去形と半過去形の違いは「出来事 VS 状況」「完了 VS 未完了」だけではありません —」 *Rencontres 21*, pp.74-79.
- Hirashima, R. (à paraître). Pour une autre description de l'Imparfait de l'indicatif, *Revue japonaise de didactique du français*, 21.
- Imbs P. (1960). *L'emploi des temps verbaux en français moderne*, Librairie C. Klincksieck.
- LivreFLE. (n.d.). *Catégorie: Dialogues en français niveau A2*.  
[https://livrefle.com/category/dialogues-en-francais/dialogues-en-francais-niveau-a2/#google\\_vignette](https://livrefle.com/category/dialogues-en-francais/dialogues-en-francais-niveau-a2/#google_vignette) (2026 年 3 月 24 日閲覧)
- LivreFLE. (n.d.). *Catégorie: Dialogues en français niveau B1*.  
<https://livrefle.com/category/dialogues-en-francais/dialogues-en-francais-niveau-b1/> (2026 年 3 月 24 日閲覧)
- LivreFLE. (n.d.). *Catégorie: Dialogues en français niveau B2*.  
<https://livrefle.com/category/dialogues-en-francais/dialogues-en-francais-niveau-b2/> (2026 年 3 月 24 日閲覧)
- Martin, R. (1971). *Temps et aspect, Essai sur l'emploi des temps narratifs en moyen français*. Klincksieck.
- 松澤水戸 (2014) 「フランス語における複合過去形と半過去形の使い分け — 語彙アスペクトを用いた分類」『ロマンス語研究』No.47, pp.37-45.

西村牧夫（2011）『中級フランス語 よみとく文法』白水社

Touratier, C. (1996). *Le système verbal français*. Armand Colin.

Weinrich, H. (1974). *Le temps*, trad. fr., Seuil

Weinrich, H. (1989). *Grammaire textuelle du français*, trad. fr., Didier/Hatier.